

地域周産期母子医療センター

- ・産科病棟
- ・NICU（新生児集中治療室）

当院では、急変等に対応できるように「産科医、新生児科医、救命医、麻酔医、助産師」が24時間常駐しております。

当院では、陣痛の痛みを和らげる方法の一つとして**無痛分娩**を行っております。

詳細は武蔵野赤十字病院・地域周産期母子医療センターのWebサイトをご覧ください。

分娩：60万円～ 無痛分娩：72万円～



産後ケア宿泊型サービス「アイルーム」 (武蔵野市事業)

出産後の「こころとからだの休息」と「リフレッシュ」を目指しています

【助成金適用あり】

母子1組 1泊2日 70,000円～ 母子1組 1泊2日 10,000円～

・武蔵野市民の方で、産後ケア事業の対象になる方には助成があります。
事前に武蔵野市に登録申請を行い、「利用登録書」の交付を受けご予約ください。
詳しくは武蔵野市健康課（0422-51-0700）にお問合せください。
詳細は武蔵野赤十字病院・地域周産期母子医療センターのwebサイトをご覧ください。

<https://www.musashino.jrc.or.jp> 〒180-8610 武蔵野市境南町 1-26-1 ☎0422-32-3111



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

武蔵野赤十字病院

No. 82

2024年 秋

〒180-8610
東京都武蔵野市境南町1-26-1
TEL 0422-32-3111

季刊 情報誌

Eye むさしの

頼れる病院をめざします



救命救急センターに勤務する 中村 真依子 看護師

健診センターからのお知らせ

「土曜日」開設の人間ドックご案内

- 平日は忙しくて！という方向け

平日は忙しくて健診を受けられない方（65歳以下）を対象に、土曜日の人間ドックを開設しました。



「平日」開設の認知症ドックご案内

- 頭健康を意識する方向け

体の健康だけでなく、頭の健康を意識する方向けに、認知症に重点を置いた認知症ドックを平日に開設しました。



—申し込み方法—
電話予約または直接健診センターへの来院予約

月曜日～土曜日 午前9時～午後4時
(但し年末年始 12/29～1/3及び5/1は除く)

電話番号 0422-30-5638 (直通)
または 0422-32-3111 (代)

健康管理の一環として、武蔵野赤十字病院健診センターをご利用ください。
お待ちしております。
★詳しくは病院ホームページの「人間ドックのご案内」で紹介しています。



基本理念

- 病む人への愛
- 同僚と職場への愛
- 地域住民と地域への愛
- 地球、自然、命への愛

基本方針

- (1) 患者・家族から信頼される安全な医療を提供します
- (2) 地域中核病院としての機能向上を図ります
- (3) 地域の医療機関・行政と連携して市民が安心して住める地域づくりを進めます
- (4) 質の高い医療を提供するため、安定した病院経営を継続します
- (5) 働きがいがあり、成長を実感できる職場をつくります



秋の食材で心身ともに健康に！

当院では、患者様に四季を感じて頂けるよう、季節の行事に合わせて行事食を提供しています。行事食は栄養バランスだけでなく、旬の食材を多く取り入れて、見た目も楽しめるような工夫をしていることが特徴です。9月は「秋分の日」に合わせて提供予定で、鮭や鯖を使った押し寿司、炊き合わせ(カボチャ)、柿の甘酢和え、練り切りを提供しています。

旬の食材は豊富に市場に出回るため安価であり、お財布事情に優しいこともあります。鮮度が良く栄養価が高くそれぞれの季節でその特徴があります。

秋は収穫の季節であり、1年の中でも旬の食材が豊かな時期です。また、秋の食材はビタミン、ミネラル、食物繊維が豊富なため、夏場の疲れをとる働きがあることや、「秋は甘味」といって冬場に備えてエネルギーを蓄える(糖質が豊富)食材が多いため、これから迎える厳しい冬に備えた体作りに役立つと言われています。

カボチャはハウス栽培により一年中出回っていますが、秋に追熟したものは通年のものに比べてβカロテン・ビタミンCがより豊富で、風邪予防効果が期待できます。また、秋の果物の代表格「柿」もビタミンCが豊富です。これはあまり知られていませんが、意外にもレモン果汁と同等のビタミンCが入っているのです。

このように、食べておいしいだけでなく栄養も豊富な秋の食材。幅広い料理に活かすことができるので、飽きることなく「食欲の秋」を楽しむことができます。秋は涼しく過ごしやすい気候である一方、初秋は暑さが残り、晩秋はぐっと気温が下がるため、意外にも体調を崩しやすい時期です。秋の栄養豊富な食材をうまく取り入れて、季節の変わり目を乗り越えましょう。



管理栄養士
黛 珠里



秋分の日の行事食(実際に以前提供したもの)



専門看護師の活動紹介

専門性の高い看護師として患者と組織・社会に貢献する



急性・重症患者看護専門看護師
中村 真依子

急性・重症患者看護専門看護師とは

急性・重症患者看護専門看護師は、緊急度や重症度の高い患者に対して集中的な看護を提供し、患者本人とその家族の支援、医療スタッフ間の調整などを行い、最善の医療が提供されるように支援しています。患者・家族、看護師や多職種や組織に対して、専門看護師の6つの役割(実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究)を用いて活動しています。

エビデンスに基づいた高度看護実践の提供

当院の救命救急センターICUには生命の危機にさらされた方が入院されます。人工呼吸器をはじめ、ECMOやIMPELLAなどといった補助循環装置など、数多くの医療機器を取り扱い、医師と協働してエビデンスに基づいた最新かつ高度な医療を提供できるよう、スタッフ看護師のロールモデルとなって教育を行いながら、患者中心の看護を提供しております。また、患者さんのご家族も看護の対象であることを大切に、予後予測の非常に困難な重症患者の特徴を十分に考慮し、ご家族による代理意思決定の支援なども行っております。

看護職員に対する研究支援活動

看護研究倫理審査委員会では、研究初学者に対する研究支援を行っております。臨床現場にはクリニカルクエスチョンが数多く存在します。臨床の看護師にこそ研究を行う楽しさを知ってもらえるよう、対面やメールでの研究支援を大学院で学び得た知識と経験をもとに委員とともに行っております。

組織横断的な活動

専門看護師は自身の所属する看護部だけにとどまらず、職種の垣根を超えて横断的に多職種と関わりを持ちます。RRS部会のメンバーの一員として教育や啓蒙活動を行ったり、また、近年では集中治療後症候群(PICS)の啓蒙活動に関しても多職種と協働して勉強会の開催などを行っております。